

政権交代

## 自公政治ストップ

“5つの改革”で希望の持てる新しい日本へ

1. 格差ただし  
家計第一の政治に
2. 憲法まもり  
立憲主義をとりもどす
3. いいなり外交やめ  
自主・自立の平和外交へ
4. グリーン・リカバリー  
—— 自然と共生を
5. ジェンダー平等を実現  
個人尊重の政治に



高橋ちづ子

東北の命綱 衆議院議員



ふなやま由美

医療・福祉の専門家 元仙台市議

制度解説

小選挙区は「候補者名」で投票します  
比例代表は

「日本共産党」と政党名で

新しいわて

2021年 8・9月号外 ●日本共産党岩手県委員会は政策を発表しました  
発行：新しいわて社 盛岡市本町通2-3-6 TEL 019-651-5881

# コロナからいのちと くらしを守る政治を

日本共産党

コロナ危機で明らかになったことは、弱い立場の人に冷たい社会です。自己責任ではなく、連帯で支えあいを応援し、公的責任を果たすことが政治の役割ではないでしょうか。

東日本大震災津波の年に子どもを出産。「子どもたちの未来に原発はいらない」「子ども医療費は無料に」と取り組みを行ってきました。

一人ひとりを大切にする政治を実現するために全力をあげます。

党国会議員団岩手県事務所長

吉田恭子  
よしだ きょうこ

●略歴／1981年紫波町生まれ。県立盛岡第二高等学校、和光大学経済部卒。労働組合書記を経て、党岩手県委員会勤務。現在党県副委員長、県原水協常任理事。家族は夫・一女・義母。

# 一人ひとりを大切にする政治に変えましょう

## コロナから命まもる

- PCR検査の拡充、病床の確保、直接補助・家賃支援・宿泊割など事業者支援を実現
- 五輪より命を大切に 一あらゆる力をコロナ対策に集中すべき。ワクチン接種を早期・確実に実施を。事業者には経営守る補償を
- 国の責任で米価下落対策を



達増知事に新型コロナウイルス対策の抜本的強化を求める申し入れ (5月12日)

新型コロナ感染が首都圏をはじめ全国で急拡大しています。かつてない危機的状況です。ところが菅政権は、世界最大のスポーツの祭典である東京五輪の開催を強行し、爆発的な感染をまねきました。

日本共産党は、1月以来、「五輪は中止を」「五輪より命守れ」と一貫して取り組んできました。あらゆる力をコロナ収束に集中すべきです。

## 子ども、医療・介護・保育の充実を

- 子どもの医療費窓口無料化を中学校卒業まで実現(県)
- 35人学級を国に先がけて実現(2019年度から小中学校全学年で)
- 公立・公的病院の統廃合は撤回し、医師・看護師の大幅増員を。介護・保育などケア労働の抜本的改善を



「岩手の会」の皆さんが子どもの医療費助成制度の拡充を求め県に要請(1月29日)

子育て世代の方たちと力を合わせ、子どもの医療費の中学校卒業までの窓口無料化を実現してきました。35人学級は国に先がけて岩手県は小中の全学年で2019年度から実現しています。

コロナ危機で明らかになったことは、医療・介護・保育の脆弱性です。私たちの命にかかわるケア労働の抜本的な改善が必要です。子どもも高齢者も大切にされる政治を実現しましょう。

県民の声、ねがいに心よせて  
国政・県政に届けてきました

## 吉田 恭子

よしだ

きょうこ



## ジェンダー平等 若者・学生支援

- 「女性の貧困」打開を、「生理の貧困」解消へ、選択的夫婦別姓の実現、性暴力の根絶へ民法改正を
- 働いたら正社員が当たり前の社会を  
大学学費は半額に、本格的給付制奨学金を

女性労働者の56%が非正規雇用です。コロナ危機で真っ先に切り捨てられています。「女性の貧困」が社会問題となり、「生理の貧困」をなくす取り組みが進んでいます。学生もバイトがなくなり大変です。民青同盟や各団体が食料支援取り組みを行っています。

## 原発ゼロ 震災復興

- 原発なくせと運動継続。福島原発汚染水の海洋投棄は許せない
- 被災者の医療費免除を10年間継続実施。心のケア、コミュニティの確立、事業者の再建を最後まで支援



「脱原発盛岡金曜デモ」に参加

東日本大震災津波から10年が経過しました。最大の成果は、被災者の医療費免除を10年間継続実施させてきたことです。

東京電力福島原発事故はいまだ収束していません。汚染水を海洋投棄することは撤回すべきです。原発ゼロこそ必要です。2012年7月から盛岡市で行われている「脱原発盛岡金曜デモ」に参加してきました。